

平成30年度 第2回 堺市立図書館協議会 会議録

開 催 日

平成31年3月19日（火）午後2時から4時

場 所

堺市立中央図書館 集会室

出席委員

常世田良会長、平野祐子副会長、中辻道雄委員、脇谷邦子委員、  
飛石隆男委員、吉田マリ子委員、山中浩之委員  
(欠席：寺田孝志委員、森美由紀委員)

事務局

藤田中央図書館長、赤嶺中央図書館総務課長、  
浦部参事（企画・調整担当）、松井参事役（企画・調整担当）  
三井総務課長補佐、  
岡田中図書館長、田中東図書館長代理、中川西図書館長、  
成清南図書館長、杉田北図書館長、白川美原図書館長、  
山内企画情報係長、白川図書館サービス係長、輔信企画情報係副主査、  
亀坂企画情報係職員

傍 聴

1名

内 容

案件

- 1 平成31年度図書館予算について
- 2 平成29年度堺市立図書館サービス評価について
- 3 平成30年度堺市立図書館サービス評価について
- 4 その他

開会宣言・会議の成立

傍聴の許可

会議録署名委員の指名

・山中委員、吉田委員を指名

案件1 平成31年度図書館予算について

⇒事務局

資料1-1に基づき、「平成31年度図書館予算」について、前年度からの増減部分などを説明。

●（会長）

サテライト型図書サービスコーナーは図書館直営であるのか。

⇒事務局

直営又は委託も視野に入れて検討している。

**案件2 平成29年度堺市立図書館サービス評価について**

⇒事務局

資料2-1、2-2に基づき「平成29年度堺市立図書館サービス評価（案）」について説明。

●（会長）

平成29年度をたたき台として作ってきた。立体的に堺市の図書館の状況が浮かび上がるような評価のモデルができたのではないかと。委員の皆様において承認いただけるか。→委員の全会一致により、平成29年度堺市立図書館サービス評価について承認。

**案件3 平成30年度堺市立図書館サービス評価策定について**

⇒事務局

資料3-1、3-2に基づき「平成30年度堺市立図書館サービス評価（案）」について説明。

⇒中央図書館総務課長、中図書館長、東図書館長代理、西図書館長、南図書館長、北図書館長、美原図書館長よりプレゼンテーション。

●（委員）

各区で目標をたてるのは良い試みである。各区の人口構造、就業構造、学校の有無や年齢別利用比率なども押さえた上でたてるべき。立地条件もあるが、自館のよさや強みをつかんで、積極的にPRしていてもいい。イベントだけではなく、自分の地域の利用状況の分析に取り組んでほしい。

●（会長）

今年度はまだ試行であるが、これが軌道にのっていくことを期待する。分析を始めるとなかなか大変なことになるが、その一歩を記したということ。

●（副会長）

各館の取組実績を聞き、それぞれに立地条件や環境、テーマがあることは示されたと思う。示された独自の取組をひとつの図書館で終わらせるのではなく、相互で取り入れ、連携して取組方法も検討するなどすれば、より多くの来館者が期待できるのではないかと。

● (会長)

全体的に児童分野の取組が多いが、利用を増やすには働き盛りの市民が図書館に来ないといけない。課題解決型に取り組みたいという館の話もあり、ぜひ働き盛りのためのサービスを組み込んでもらいたい。図書館から出て連携している例、積極的にやっている館もあって、これが突破口の一つ。人員の問題もあるが、そういう状況をどうするかということを経営的に取り組んでいかないとはいけない。

人口構造の変化に合わせたサービスのバランスも大切であるが、かなり立体的に状況が見えるようになった。今後も多角的に分析することをお手伝いするということをお願いしたい。

⇒事務局より今後のスケジュールについて説明

**案件4 その他**

資料4-1、5-1、5-2、5-3、6-1を事前配布資料として各委員に送付した。

● (委員)

議会对应資料について、協議会とその設置目的について質問がでている。協議会委員の定数は10人だが、現在9人であることについての根拠がこの答弁だけではわからない。定数枠いっぱいが増やしてほしいという要求や公募委員を増やしてほしいという要求もある。また、一般市民を対象に公募委員を募るときに「家庭教育の向上に資する活動を行うもの」という条件は不要ではないか。働いている人も利用できるような図書館であるべきで、多様な意見を図書館の運営に反映させるためにも、公募委員は条件を付けずに、複数募集するほうがよい。

また、学校に出向いて支援する仕組みの構築について、図書館が学校の支援をするのはよいことだが、連携を深めるためには学校側に受け皿が必要。

⇒事務局

協議委員の定数について、以前より要望は受けている。財政課にも近年要望したことがあるが、十分に説明しきれなかったところがある。今後、増員の必要性についてまた検討協議していく必要があると考えている。

学校との連携については、これまでも図書館は学校図書館に対して支援してきたが、新たに学校、学校教育部、図書館の三者がチームとして、連携して支援していく。学校教育部が主体となり、図書館は支援するという形をとっている。今後何を望まれているのか、何をすればいいのかは協議して進めていくことになる。

● (委員)

議会の傍聴にも行っていたが、学校との連携について、学校側の受け皿の基盤がまだしっかりしていない中でどれぐらいのことができるのか疑問であった。また、図書館を教育委員会の所管でなく、市長部局が担うという議論が出ている。今後注意して見てい

かなければならない動向である。

● (会長)

学校に対して図書館が支援するのは重要なテーマであり、全国的に取組が少しずつ広がっているが、課題がたくさんある中、優先順位を精査するなど工夫しないと、現場が疲弊することを協議会としては危惧している。

● (委員)

市民の声であがっている要望の自習できるスペースの話や、美原図書館からの報告にもあったゲームイベントなど、個人的には違和感があったが、時代を考えると変わらないといけないのかも思う。市民の声があるなら、考えてみる姿勢も必要ではと思った。

● (会長)

堺の図書館は歴史も実績もあるが、時代とともに変化しないといけない。変えてしまうと戻るのが難しいので慎重にしないといけないが、司書職集団がいるので、柔軟な思考をもって、次の堺モデルを打ち出していけるのではと思っている。

**その他報告**

⇒事務局

「図書館アンケート調査の結果」について報告。

「中央図書館基本構想（図書館サービス機能）の進捗状況」について報告

「堺市子ども読書活動推進計画」の改定について報告。

● (委員)

アンケート結果の「図書館からのお知らせは主に何でお知りになりますか」について、広報さかいから知る人が多いが、広報では自分の住んでいる区のお知らせしかわからない。他の区のものには載せられないのか。

● (事務局)

次年度は広報さかいを使って、市民の方にもっと図書館について知ってもらえるようなPRへの取組を考えていきたいと思っている。

● (委員)

大阪市の中央図書館には各区のイベントを全部載せる掲示板がある。小規模なイベントは広報に乗らないので、ああいうものができないか。

● (会長)

「図書館からのお知らせは主に何でお知りになりますか」は複数回答可であり、例えば「図書館ホームページ」と「広報さかい」の回答がどれぐらい重複しているかなどク

ロス集計で分析してみてもどうか。

●（委員）

学校によっていろんな図書館があると思うが、校区の学校図書館が体育館の2階にあって不便である。学校司書も2校兼務で常にいるわけではない。このあたりの解決策はどうなっているのか。図書館から教育委員会に話を持ち掛ければ少しでも前進するのではないか。行きやすい場所であれば、保護者やPTAに目を通してもらえる機会も増える。

また、公共図書館も利用者が固定されているのではないか。誰でも入りやすい図書館にしていきたい。

●（事務局）

いろんな年齢層に対して、初めて図書館にきてもらうための働きかけをしていきたい。また、学校図書館は学校教育部の管轄なので、図書館から直接要望はできないが、協議会で出た意見ということで学校教育部に伝えておく。

会長による閉会宣言

以上